

西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書 (17)

過疎基幹農道整備事業 (平山2期地区)

中山間地域総合整備事業 (西之表東海地区) に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

二 俣 野 遺 跡

2006年3月

鹿児島県西之表市教育委員会

序 文

種子島は、黒潮海流の中に位置し、低平な大地と数多くの小川があり、照葉樹林が繁茂し、古くから自然の恵みを受け豊かな環境のもとにあることから、島の各所から遺跡が数多く発見されています。

この二俣野遺跡は、過疎基幹農道整備事業・中山間地域総合整備事業に伴い、西之表市教育委員会が主体となり、発掘調査を実施したものであります。

本遺跡からは、縄文時代早期の土器の他にも、石鏃、石斧などの石器類が出土しており、近くにも同時期の遺跡があることから、この後背地に豊かな照葉樹林帯が広がっている台地は、古代から生活に適した環境であったことがわかります。

本報告書が学術的文献として活用され、市民の埋蔵文化財保護に対する認識を高める一助となれば幸いです。

最後に、本報告書を刊行するにあたり、ご協力いただきました鹿児島県教育庁文化財課及び同県立埋蔵文化財センターをはじめ、安城地区の関係者、熊毛支庁土地改良課、さらに貴重なご助言をいただきました諸先生方に対して厚くお礼申し上げます。

平成18年3月

西之表市教育委員会教育長 有島正之

報 告 書 抄 録

ふりがな	ふたまたの いせき							
書名	二俣野遺跡							
副書名	過疎基幹農道整備事業(平山2期地区)・中山間地域総合整備事業(西之表東海地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	17							
編集者名	沖田純一郎							
編集機関	西之表市教育委員会							
所在地	〒891 - 3193 鹿児島県西之表市西之表7612番地							
発行年月日	2006年3月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
二俣野遺跡	鹿児島県 西之表市 安城平山 二俣野	462136	88	30° 39′ 38″	131° 03′ 07″	確認調査 緊急調査 20031003 ～ 20031106	468m ²	過疎基幹 農道整備 中山間地 域総合整 備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
二俣野遺跡	散布地	縄文時代早期	集石 配石	土器 (貝殻文系土器等) 石鏃 石斧 磨石 敲石 台石類				

例 言

1. 本書は過疎基幹農道整備事業（平山2期地区）・中山間地域総合整備事業（西之表東海地区）に伴う二俣野遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は、鹿児島県農政部（熊毛支庁土地改良課）の委託を受け、西之表市教育委員会が実施した。
3. 本書に用いたレベル数値は、鹿児島県農政部（熊毛支庁土地改良課）が作成した地形図に基づく海拔高である。
4. 本書の遺物番号は全て通し番号で本文及び挿図・図版番号と一致する。
5. 発掘調査における測量・実測・写真撮影は沖田が行い、下園恵・村松真由子・桑原とも子が測量・実測の補助を行った。
6. 本書の執筆と編集は沖田が行い、遺物の実測・トレース、整理作業は荒井美佳子・原里菜が行った。
7. 写真図版の遺物撮影は種子島開発総合センター委託職員尾形之善氏と沖田が行った。
8. 整理作業に関して、鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センターの協力を得た。
9. 出土遺物は西之表市教育委員会で保管し、展示・活用する。

目次

序文
報告書抄録
例言

第I章 調査の経過	2	第3節 遺構	12
第1節 調査に至る経緯	2	第4節 遺物	12
第2節 調査の組織	2	(1) 土器	12
第3節 調査の経過	3	(2) 石器類	15
第II章 遺跡の位置と環境	5	第IV章 調査のまとめ	28
第1節 遺跡の位置	5		
第2節 遺跡の環境	5		
第III章 調査の概要	8		
第1節 調査の概要	8		
第2節 層位	8		

挿図目次

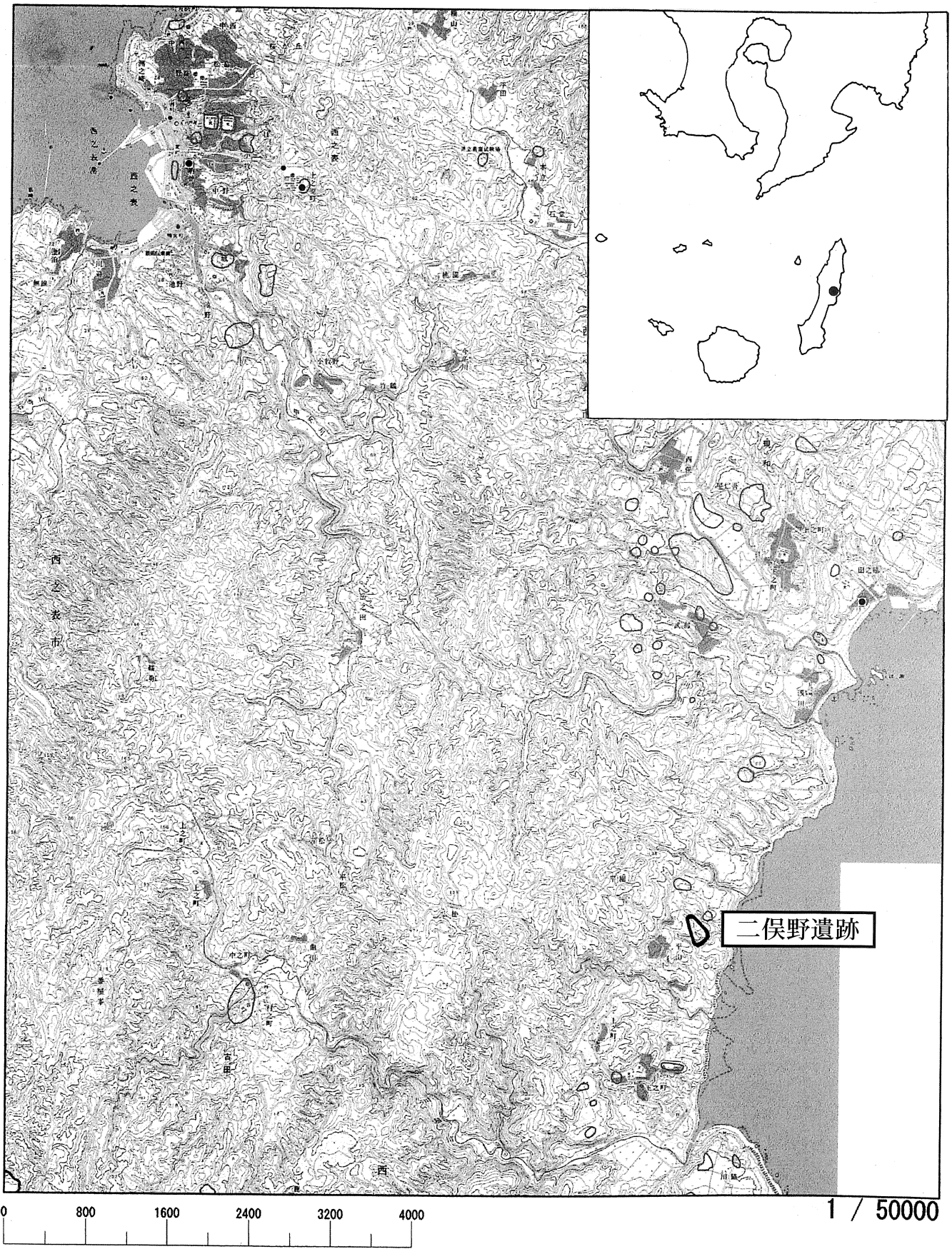
第1図 二俣野遺跡の位置	1	第11図 出土土器(2)	19
第2図 二俣野遺跡と周辺遺跡図	6	第12図 出土土器(3)	20
第3図 二俣野遺跡トレンチ配置図	9	第13図 出土状況(4)	21
第4図 Cトレンチ東側土層断面図	10	第14図 出土土器(5)	22
第5図 土層断面図	11	第15図 出土石器(1)	23
第6図 Cトレンチ遺構配置図・遺物出土状況	11	第16図 出土石器(2)	24
第7図 遺構実測図	14	第17図 出土石器(3)	25
第8図 Cトレンチ土器・石器出土状況	16		
第9図 Fトレンチ遺物出土状況・土器集中出土状況実測図	17		
第10図 出土土器(1)	18		

表目次

第1表	二俣野遺跡周辺遺跡地名表	7	第3表	土器観察表	26
第2表	トレンチ調査状況	12	第4表	石器観察表	27

写真図版

図版1	Cトレンチ調査状況(1)	29	図版8	遺物出土状況(3)	36
図版2	Cトレンチ調査状況(2)	30	図版9	出土遺物(1)	37
図版3	Fトレンチ調査状況(1)	31	図版10	出土遺物(2)	38
図版4	Fトレンチ調査状況(2)	32	図版11	出土遺物(3)	39
図版5	1号集石・1号配石	33	図版12	出土遺物(4)	40
図版6	遺物出土状況(1)	34	図版13	出土遺物(5)	41
図版7	遺物出土状況(2)	35			



第1図 二俣野遺跡の位置

第 I 章 調査の経過

第 1 節 調査に至る経緯

鹿児島県農政部（熊毛支庁土地改良課）は、西之表市内において過疎基幹農道整備事業（平山 2 期地区）・中山間地域総合整備事業（西之表東海地区）を計画し、事業区内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財課（以下県文化財課）に照会した。これを受けて、県文化財課が埋蔵文化財分布調査を実施した。その結果、事業区内に二俣野遺跡等数箇所の遺跡が所在することが判明した。

分布調査の結果をもとに熊毛支庁土地改良課・県文化財課・西之表市教育委員会は遺跡の取り扱いについて協議を行い、埋蔵文化財と開発事業の調整を図るため、埋蔵文化財確認調査を実施することとなった。

二俣野遺跡の確認調査は協議の結果、平成 15 年 10 月に西之表市教育委員会が調査主体となり実施し、遺物包含層が確認されたが、その残存範囲が狭小であることが判明したため、事業主体者と協議を行った結果、引き続き緊急発掘調査を行うこととなった。確認・緊急発掘調査は平成 15 年 10 月 6 日から 11 月 6 日まで実施した。整理・報告書作成作業は平成 17 年度に実施した。

第 2 節 調査の組織

（発掘調査）

事業主体者	鹿児島県農政部 熊毛支庁土地改良課				
発掘調査主体者	西之表市教育委員会				
発掘調査責任者	西之表市教育委員会	教 育 長			有島 正之
発掘調査企画	西之表市教育委員会	社会教育課	課 長		阿世知猛雄
	”	”	課長補佐		奥村 学
発掘調査担当	西之表市教育委員会	社会教育課	主 事		沖田純一郎
発掘調査作業員	長濱トミ子	遠藤ハツ子	延時ヤス子	延時信子	入鹿山えり子
	鮫島美伊子	宮園京子	長野フミエ	小川良子	川原明子
	山口由美子	長野フミ子	金澤光治	田上亥年	下園 恵
	桑原とも子	村松真由子			

（整理・報告書作成）

事業主体者	鹿児島県農政部 熊毛支庁土地改良課				
作成主体者	西之表市教育委員会				
作成責任者	西之表市教育委員会	教 育 長			有島 正之
作成企画者	西之表市教育委員会	社会教育課	課 長		河野 博康
	”	”	課長補佐		奥村 学
作成庶務担当	西之表市教育委員会	社会教育課	主 査		濱渡 友子
作成担当	西之表市教育委員会	社会教育課	主 事		沖田純一郎
整理作業員	荒井 美佳子 原 里菜				

第3節 調査の経過

二俣野遺跡の確認・緊急発掘調査は平成15年10月6日から11月6日まで牧野遺跡の確認調査と同時にいった。二俣野遺跡の調査対象地内にA～Eまで任意に5箇所のトレンチを設置した。調査は、表土を重機で除去後人力によって掘り下げ遺物包含層の有無を調査した。調査の結果C・Fトレンチで遺物包含層が確認されたが、事業対象地内において遺物包含層残存範囲が狭小であったため、事業主体者と協議を行い、C・Fトレンチを拡張し、緊急発掘調査を行うこととなった。緊急発掘調査は表土・アカホヤ火山灰層を重機で除去後人力によって掘り下げながら調査を行った。以下調査の経過については日誌抄をもってかえる。

「確認・緊急発掘調査」

10月6日	月	A～Fトレンチ設置。重機による表土除去作業後、掘り下げ開始。阿世知社会教育課長・奥村課長補佐・市農林水産課職員2名来跡。
7日	火	D・E・Fトレンチ掘り下げ。
10日	水	トレンチ配置図平板測量。D・E・Fトレンチ掘り下げ。Fトレンチより集石の一部を検出する。
15日	水	D・E・Fトレンチ掘り下げ。Fトレンチより土器片・熱を受けた礫等出土する。Fトレンチ拡張して調査を開始。
16日	木	Fトレンチ掘り下げ、拡張部分実施、遺物出土する。
17日	金	Bトレンチ掘り下げ。土器片出土する。遺物出土状況等写真撮影。熊毛支庁土地改良課津江氏来跡。
20日	月	Cトレンチ・Fトレンチ掘り下げ。
21日	火	Cトレンチ掘り下げ。遺構精査作業。Fトレンチ土器片が一部集中して出土。写真撮影、実測用断面ベルトを残して掘り下げる。
22日	水	Cトレンチ拡張を行う。Eトレンチ深堀り実施。Fトレンチ掘り下げ、石鏟出土する。
23日	木	Cトレンチ西側箇所掘り下げ、土器片出土。Eトレンチ深堀り終了。Dトレンチ土層断面図作成。Fトレンチ重機で拡張する。土器集中箇所実測開始。種子島開発総合センター尾形氏、熊毛支庁土地改良課津江氏来跡。
24日	金	Cトレンチ西側拡張部分掘り下げ。土器片出土。Eトレンチ土層断面図写真撮影、土層断面図作成。Fトレンチ土器集中出土地点実測開始。
27日	月	Bトレンチ土層断面図作成。Cトレンチ平板・レベル遺物取り上げ。南側・東側掘り下げ。Fトレンチ平板・レベル遺物取り上げ。
28日	火	Cトレンチ拡張し掘り下げ。東側より礫・土器片出土。
29日	水	Cトレンチ掘り下げ、土層断面図作成。Fトレンチ土層断面図作成。種子島開発総合センター尾形氏来跡。
30日	木	Cトレンチ掘り下げ、集石検出作業、東側土層断面図作成。市農林水産課職員2名来跡。
31日	金	Cトレンチ平板・レベル遺物取り上げ。集石検出作業。西側掘り下げ。

11月4日	火	Cトレンチ配石検出, 実測開始。集石実測開始。平板・レベル遺物取り上げ。西側部分掘り下げ。東側土層断面図作成。
5日	水	Cトレンチ掘り下げ。集石・配石実測終了。平板・レベル遺物取り上げ。
6日	木	Cトレンチ掘り下げ, 清掃, 写真撮影。発掘道具後片付け。作業終了。奥村社会教育課長補佐来跡。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置

種子島は本土最南端の佐多岬から大隅海峡を隔てた、東南約40kmの海上にあり、南北52km、東西12kmの北北東から南南西に細長く伸びた、最高標高でも282.3mしかない低平な細長い島で、地形は丘陵性の山地、海岸段丘、河川付近の沖積低地からなり、西方に位置する屋久島とは対照的である。また、西海岸部には比較的砂丘が発達しているが、東海岸は断崖に富んでいる。行政区は北から西之表市・中種子町・南種子町と1市2町からなる。

二俣野遺跡は西之表市の東南海岸部安城地区平山の標高約62mの海岸段丘上の先端部に位置し、遺跡の東側には太平洋を望むことができる。遺跡の周辺には川が流れており、周辺では一段高い位置に遺跡は形成されている。

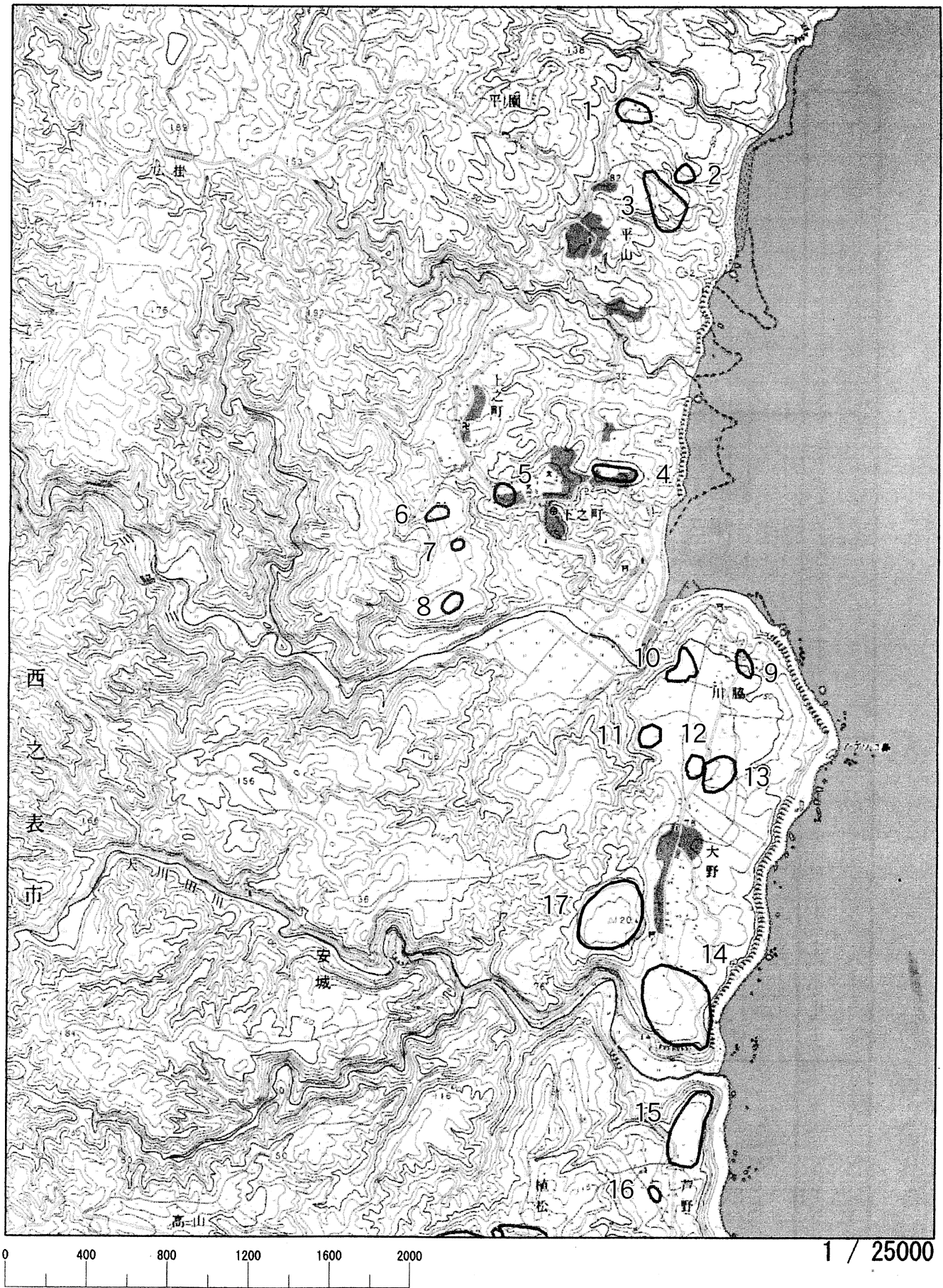
種子島の遺跡について述べると、約3万年前の旧石器時代の遺跡である横峯遺跡（南種子町）・立切遺跡（中種子町）や、細石核・細石刃が採集された湊遺跡・大中峯遺跡（西之表市）があり、奥ノ仁田遺跡（西之表市）の調査によって縄文時代草創期の遺跡が初めて確認され、その後鬼ヶ野遺跡や三角山遺跡（中種子町）の調査で縄文時代草創期の住居址や多数の遺構、遺物が発見され注目を浴びている。その後の縄文時代早期・前期の遺跡も島内各地で確認されているが、中期の遺物の報告例は少ない。後期の遺跡は指宿式・市来式などが出土する遺跡が島内各地で確認されており、納曾式土器の標識遺跡である納曾遺跡（西之表市）、特異な配石遺構が多数検出された藤平小田遺跡（南種子町）などがある。

弥生時代は下剥峯遺跡・田ノ脇遺跡・馬毛島椎ノ木遺跡（西之表市）や、多数の人骨と貝製品が出土した広田遺跡（南種子町）、覆石墓・人骨が出土した鳥ノ峯遺跡（中種子町）などがあり、中期頃の土器片が出土する遺跡も確認されているが、埋葬址が多いのが特徴的である。

古墳時代に属すると思われる遺跡は上能野貝塚・下剥峯遺跡（西之表市）などがある。種子島において、弥生時代以降の遺跡は縄文時代の遺跡に比べ極端に少ないため、未解明な点が多いのが現状である。

第2節 遺跡の環境

二俣野遺跡が所在する西之表市の東海岸側、とくに安城・立山地区は近年開発事業のため発掘調査が毎年実施され、良好な資料が出土している。特に、鬼ノ仁田遺跡・鬼ヶ野遺跡は縄文時代草創期(約12,000年前)の遺跡であり、鬼ノ仁田遺跡の出土品は県の文化財に指定された。平成13年に調査が行われた鬼ヶ野遺跡からは竪穴住居跡や多数の遺構が検出され、また石鏃が約350点出土し話題となった。今後も縄文時代草創期の遺跡は増加していくものと思われ、縄文時代の成り立ちを考える上で、重要な場所である。



第2図 二俣野遺跡と周辺遺跡図

第1表 二俣野遺跡周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	時代	備考
1	牧野 B	西之表市安城平山	縄文時代草創期	平成10年農政分布調査
2	牧野	西之表市安城平山	縄文時代早期	平成16年発掘調査
3	二俣野	西之表市安城平山	縄文時代早期	平成15年発掘調査 本報告書
4	仮屋園	西之表市安城平山	縄文時代早期	平成10年農政分布調査
5	通利山	西之表市安城上之町	縄文時代	平成15年試掘調査
6	鬼ヶ野 A	西之表市安城上之町	縄文時代	平成12年確認調査
7	鬼ヶ野 B	西之表市安城上之町	縄文時代	平成12年確認調査
8	鬼ヶ野	西之表市安城上之町	縄文時代草創期	平成13年発掘調査
9	三本松	西之表市安城川脇	縄文時代早期	平成17年発掘調査
10	日守 C	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成6年確認調査
11	日守 B	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成6年確認調査
12	日守	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成7・8年発掘調査
13	長迫	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成13年試掘調査
14	東前平	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成14・15年発掘調査
15	芦野	西之表市立山芦野	縄文時代早期	平成16年発掘調査
16	九郎三エ門	西之表市立山芦野	縄文時代	平成3年農政分布調査
17	鍬ノ刃	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成17年発掘調査

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 調査の概要

確認調査は工事対象地内に任意にトレンチを設置し、人力で掘り下げを行い遺物包含層の有無、時代、広がり、出土する深さ等の情報を得るために実施した。調査の結果遺物包含層が確認されたが、残存範囲が狭小であったため、緊急発掘調査を実施した。調査面積は468 m²である。

第2節 層位

土層は場所によって一部の層が欠落している部分もあるが、基本的には下記のとおりである。

I 層 表土

II 層 黒色土

III 層 黄橙色火山灰土 アカホヤ火山灰
(約6,400年前の鬼界カルデラ噴出物)

IV 層 ベージュ色ローム土 遺物包含層(縄文時代早期)
一部下位に暗黄白色で小指大のパミスが散在するサツマ火山灰
と思われる。

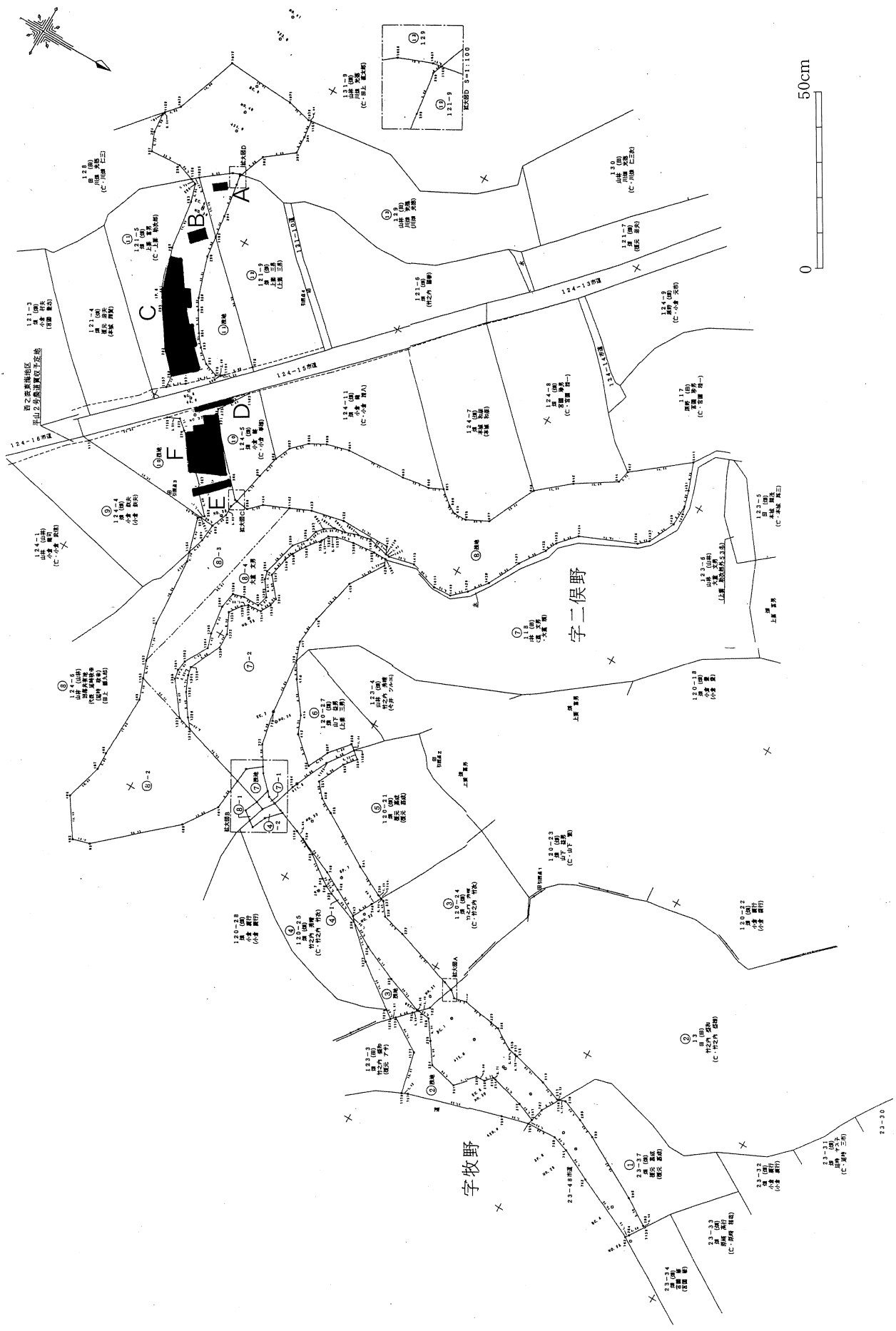
V 層 暗茶褐色粘質土 場所によっては黒色が強い場合もある。

VI 層 明黄色火山灰層 AT火山灰層(始良カルデラ噴出物, 細粒)

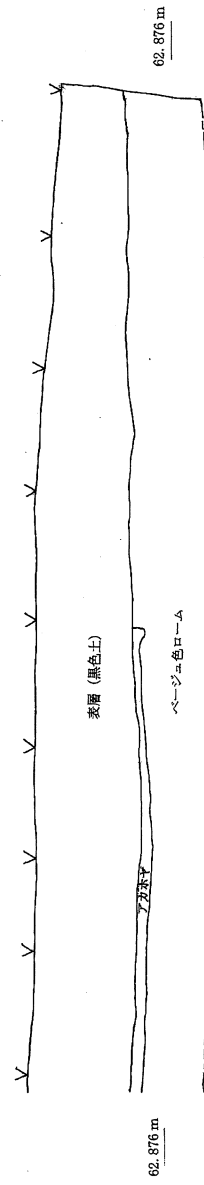
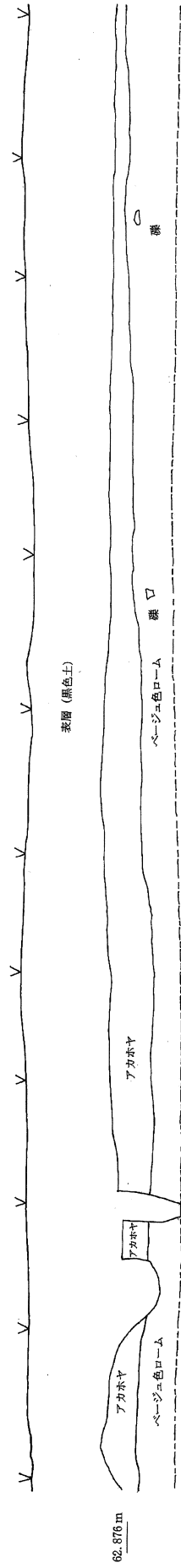
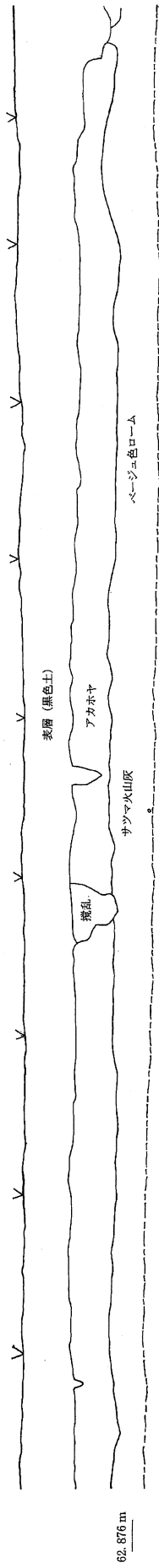
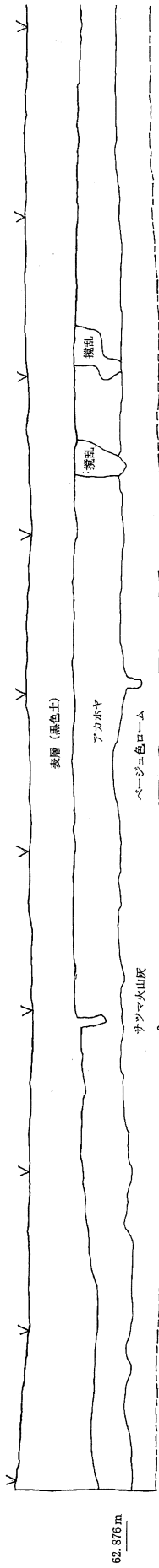
VII 層 ベージュ色ローム土 非常に粘質が強く、軟質である。

第3節 トレンチの調査

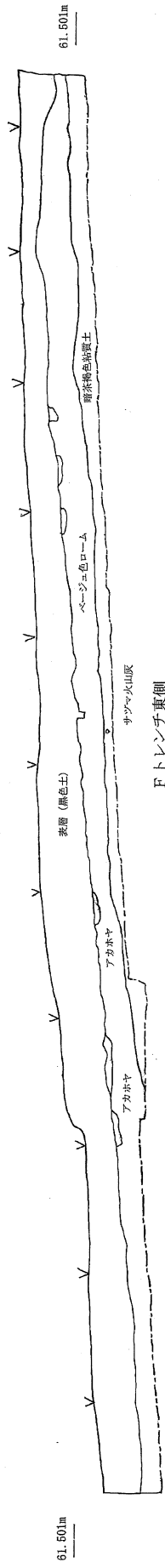
遺物包含層が確認されたのがC・Fトレンチのみであり、調査対象地内での遺物包含層残存部分が狭小であったため、トレンチを拡張し全面調査を実施した。遺物は、IV層から土器片・石器類が出土し、遺構は集石・配石が1基ずつ検出された。



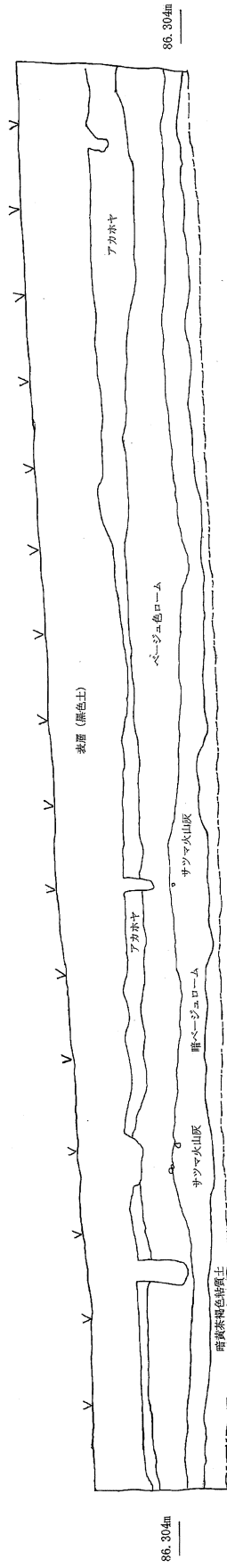
第3図 二俣野遺跡トレンチ配置図



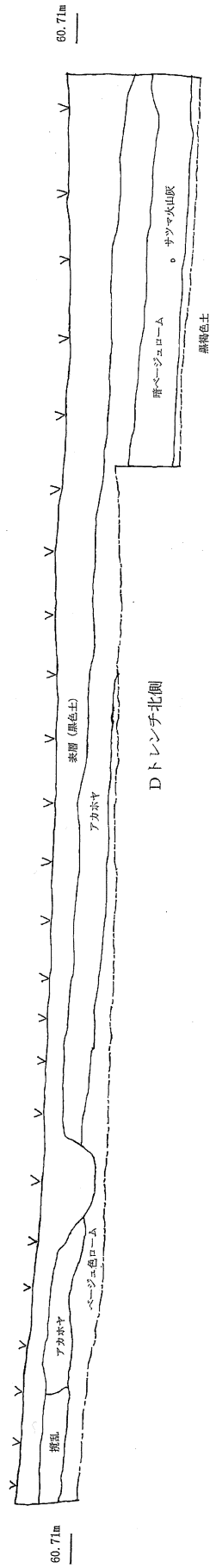
第4図 Cトレンチ東側土層断面図



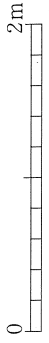
F トレンチ東側



E トレンチ西側



D トレンチ北側



第5図 土層断面図

第2表 トレンチ調査状況

No.	トレンチ名	大きさ(m)	深さ (cm)	最下層	遺物	遺構	備考
1	Aトレンチ	2×4	105	VII	×	×	
2	Bトレンチ	3×5	120	VII	×	×	
3	Cトレンチ	337m ²	90	V	○	○	全面調査実施
4	Dトレンチ	2×11	105	V	×	×	
5	Eトレンチ	2×11	130	V	×	×	
6	Fトレンチ	131m ²	75	V	○	○	全面調査実施

第4節 遺構

1号配石(第7図)

Cトレンチ、北側より検出された。検出面は第IV層である。数cmから20cm程度の礫が10点若干散在した状態での検出であったが、ほぼ北から南へと一直線上に9点の礫が並ぶように配置されている。周辺には炭化物は検出されず、また礫には炎熱を受けた痕跡や使用痕は見られなかった。礫の配置等から考え配石としたが、用途は不明である。掘り込みは確認されなかった。

1号集石(第7図)

Cトレンチ北側よりで検出された。検出面は第IV層である。拳大から手のひら位の礫約70点から構成されている。礫は拳大のものが大多数を占める。中心部に礫がまとまっているのが見受けられる。また、礫の下に軽石が挟まっているのが確認できた。中心部の礫は炎熱を受け、熱破碎が見られるが、周辺に炭化物を検出することはできず、掘り込みも確認されなかった。

第5節 遺物

遺物は土器片と石器類が出土した。出土した層は全てIV層である。時期区分では縄文時代早期に位置づけられるものである。取り上げた遺物は、パンケースに詰め込んで13箱あまりであるが、礫が大部分を占め土器片の出土は少なかった。

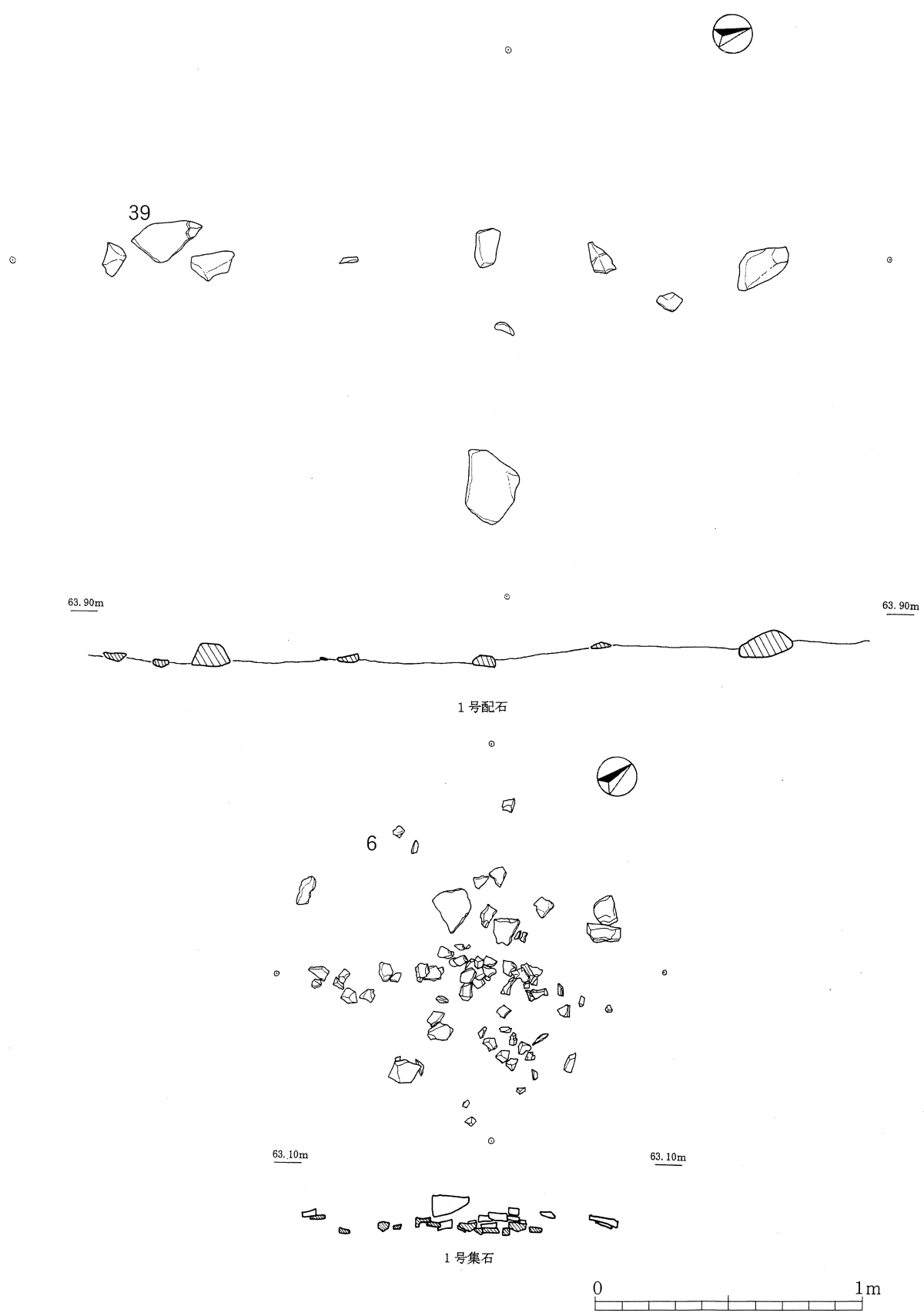
(1) 土器(第10図～第14図)

土器は条痕文を施したものの、無文のものが出土したが、大部分を無文の土器が占める。また多くは磨耗が激しく図化が困難なものが大多数を占めたため、掲載できた土器片は31点に留まった。

1・2は沈線(せんせん)を施すもので、棒状の工具を用いて施文を行っている。3～13は貝殻押し引き文、条痕文を施しているものである。押し引きが明確なもの、はっきりせず条痕文のみになっているものがある。8・9は押し引き文がはっきりと観察することができる。10～14は底部である。



第6図 Cトレンチ遺構配置図・遺物出土状況



第7図 遺構実測図

10・12は底部立ち上がり部分にヘラ状の工具で縦位に施文を行っている。11・13は浅い貝殻条痕文を施している。14は平坦で平底の底部辺になる。1～14の土器の焼成は全て良好で内面、外面ともにヘラ磨き調整を行っている。

15から21までは貝殻条痕文のみの施文をおこなっているもので、焼成はあまり良くなく、胎土に砂粒が多く含まれる特徴がある。器壁は厚く仕上がっている。15は口縁部になる、内面は調整があまり行われておらず粗く仕上がっている。16・19は内面の調整を途中でやめているため粘土のつなぎ目が見られる。22から28は無文の土器片であるが、胎土・焼成などから15から21と同じタイプの土器であると思われる。29は竹管状の工具で刺突が行われているもので、内・外面とも丁寧なヘラ磨き調整が行われている。30・31はともに貝殻刺突文が見られる。29・30・31のような施文を行っている土器は掲載しているもののみの出土であった。

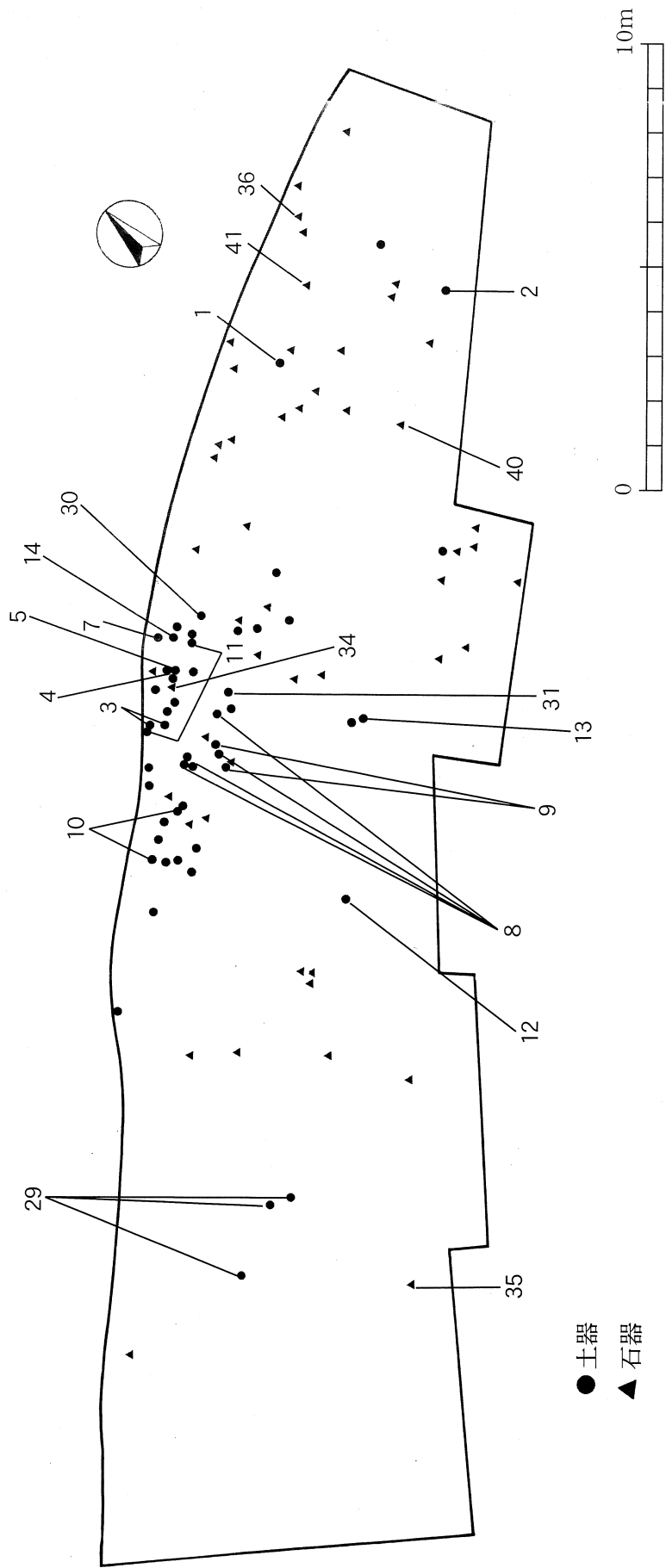
(2) 石器類 (第15図～17図)

石器類は石鏃・石斧・磨石、敲石類・砥石・台石、石皿類が出土した。また自然礫も多数出土した。

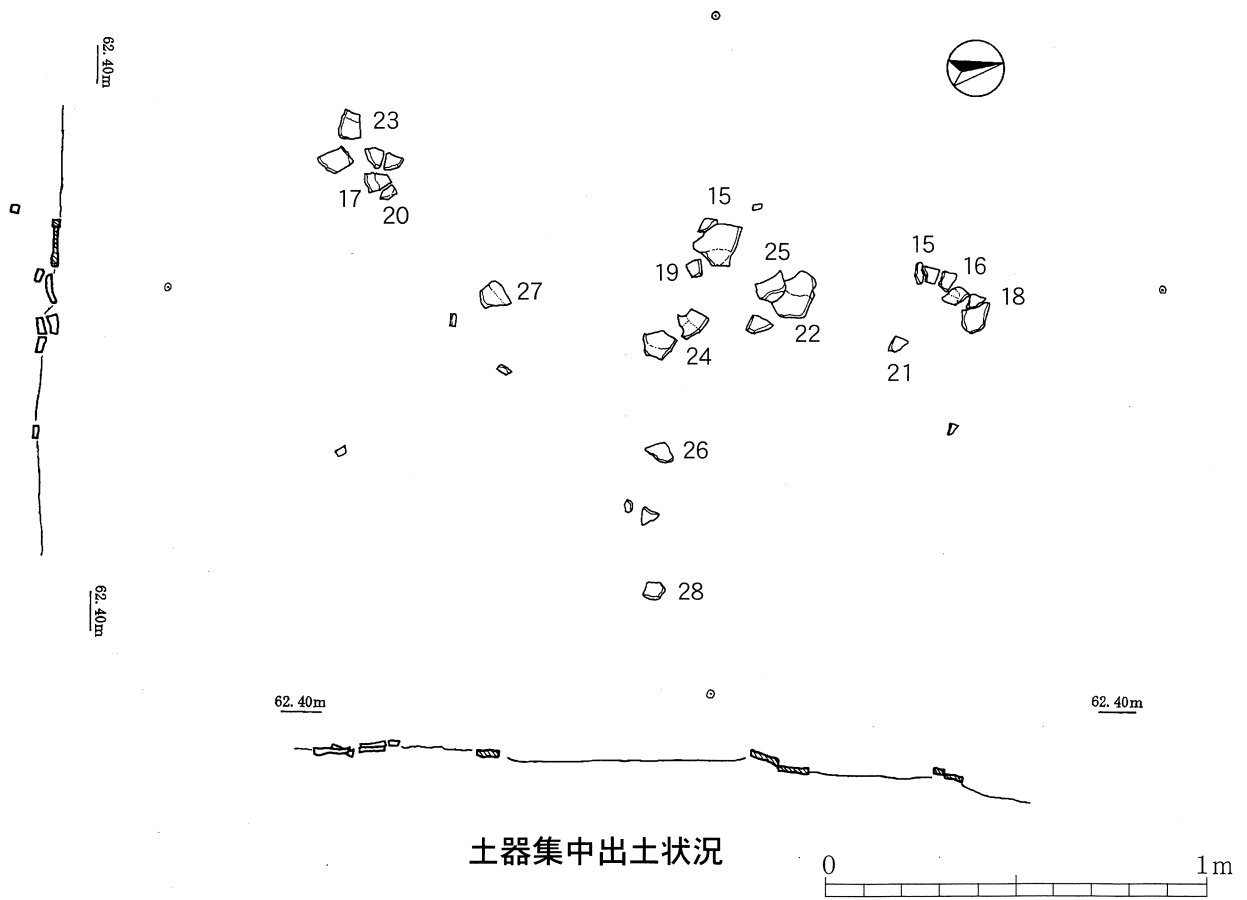
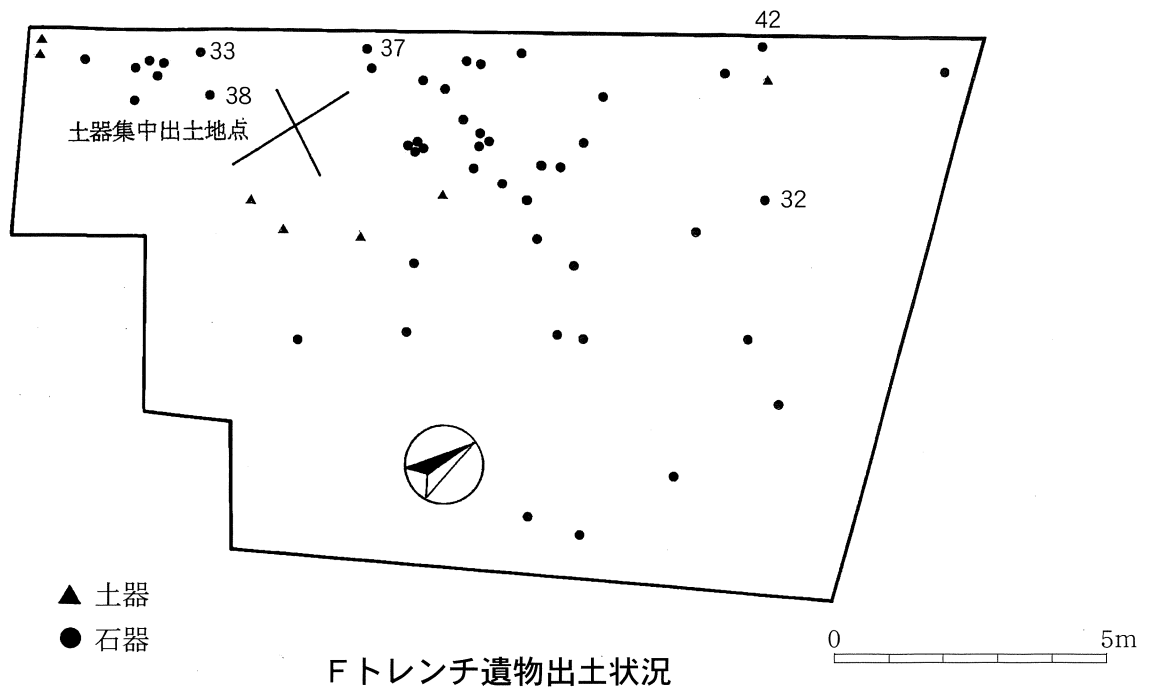
32は石鏃である。先端部が欠損している。石材はチャートで両側面に剥離がある。33は磨製石斧の刃部である。両面を丁寧に磨き上げている。使用のためか刃こぼれが観察される。34～39は磨石・敲石類で、すべてが砂岩を石材としている。あみかけは、平滑面があるところを表している。磨石は楕円形のもの(35)、不定形のもの(36～37)がある。磨る・敲くの両方に使われたものが34である。38～39は砥石として使用した可能性が高い。40～42は台石・石皿類である。40は中央部付近に打痕が見られる。

41～42は平滑面や凹面をもち、石皿として使用されたものと思われる。

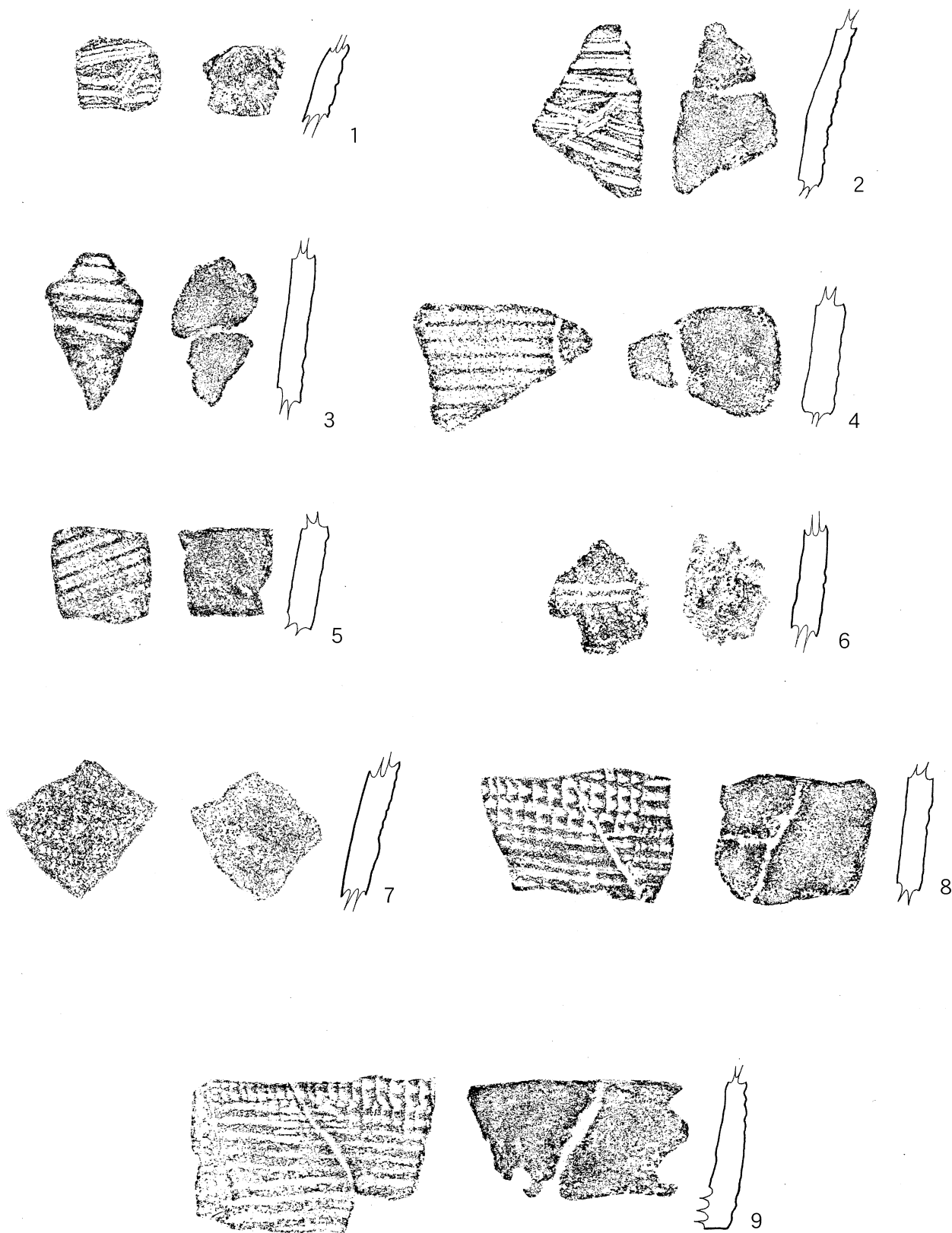
磨石・敲石・砥石・台石・石皿類などになる石材の砂岩は周辺の海岸部で比較的容易に採取できたであろう。島外から持ち込まれた石材は今回の調査では見受けられなかった。



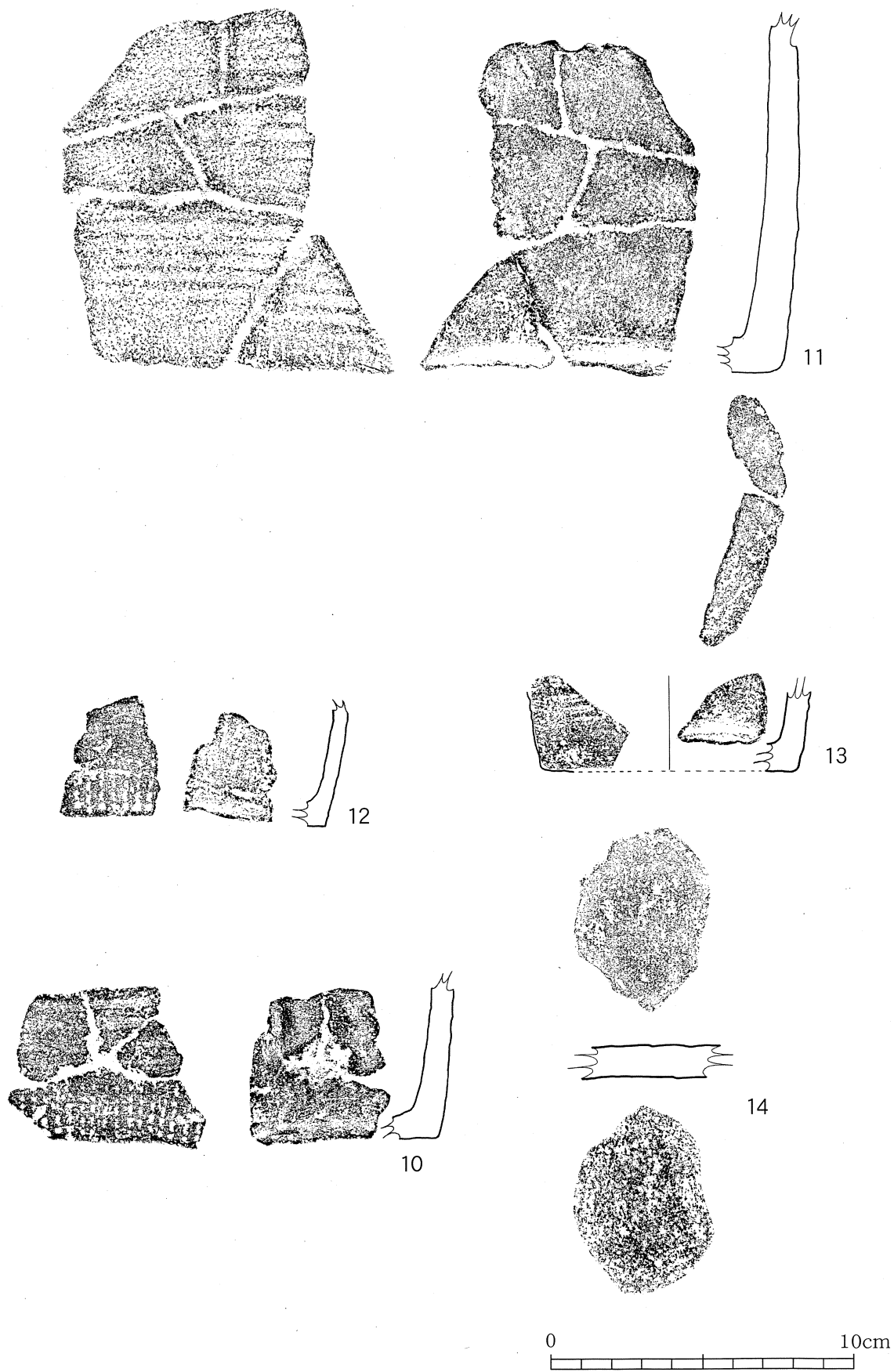
第8図 Cトレンチ土器・石器出土状況



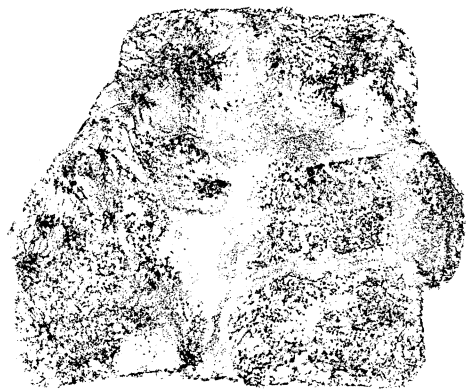
第9図 Fトレンチ遺物出土状況・土器集中出土状況実測図



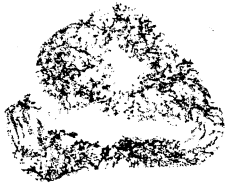
第10图 出土土器 (1)



第11图 出土土器(2)



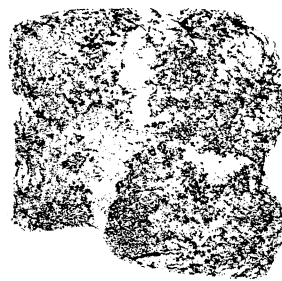
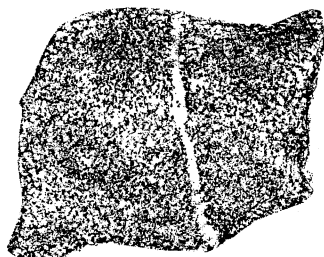
15



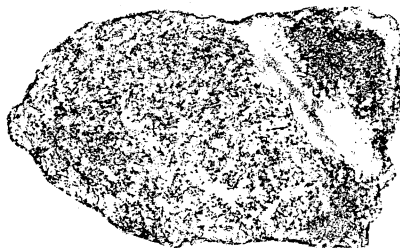
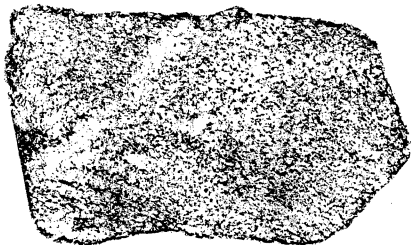
16



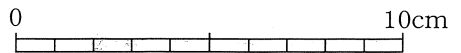
19



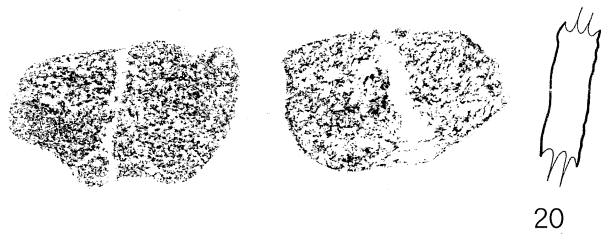
17



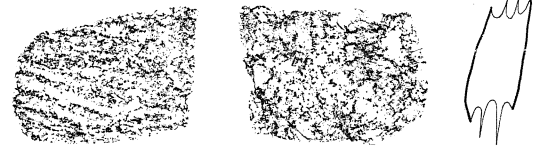
18



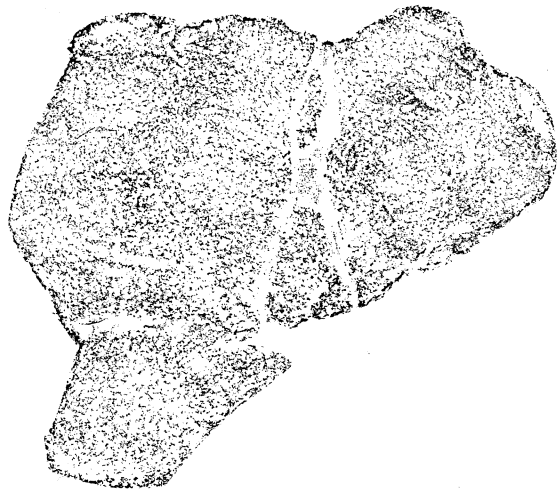
第12図 出土土器(3)



20



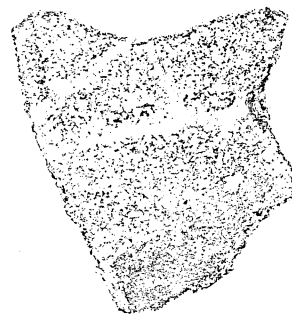
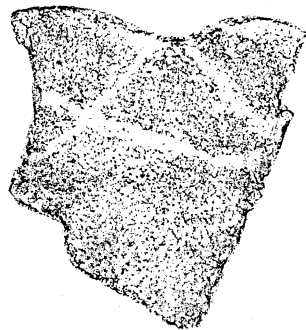
21



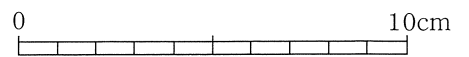
22



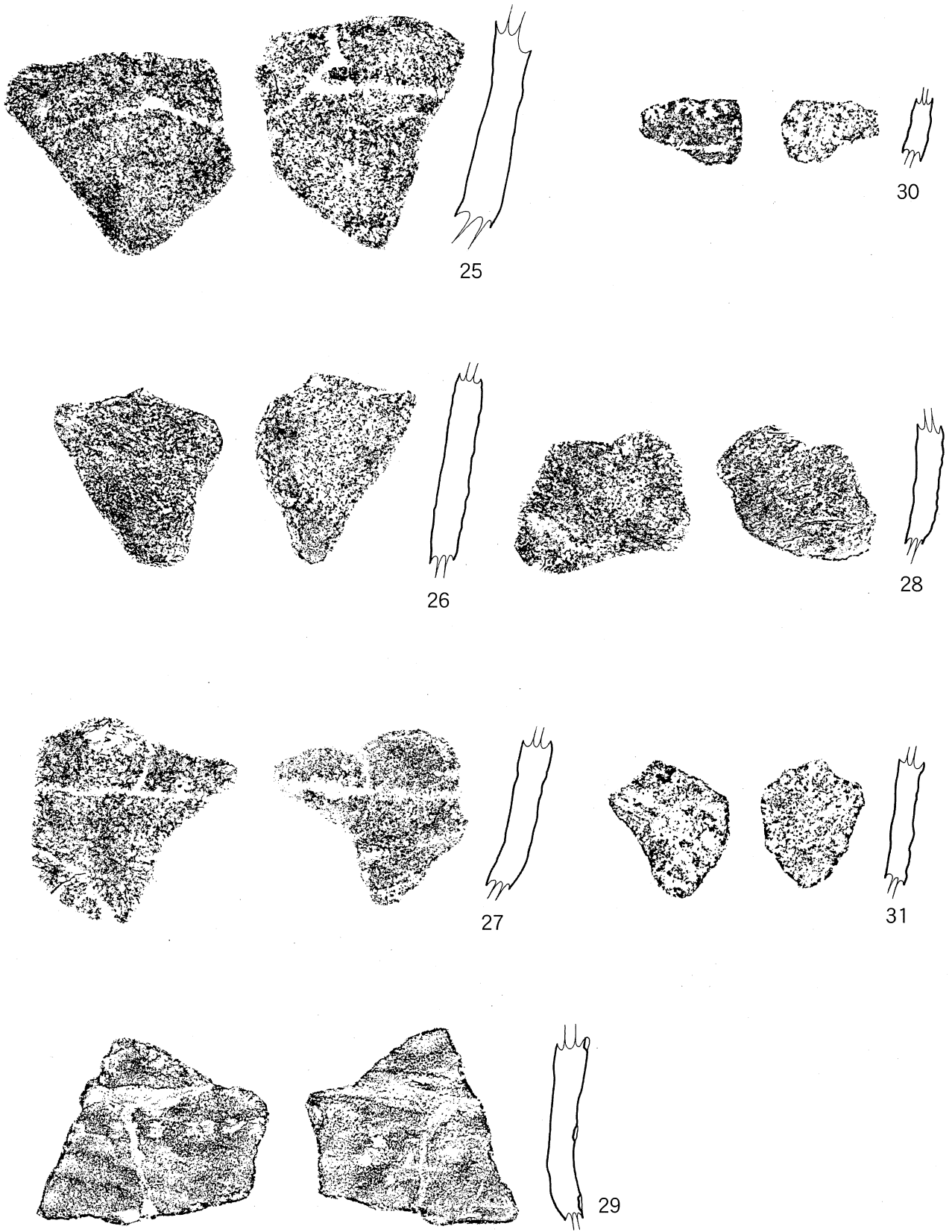
23



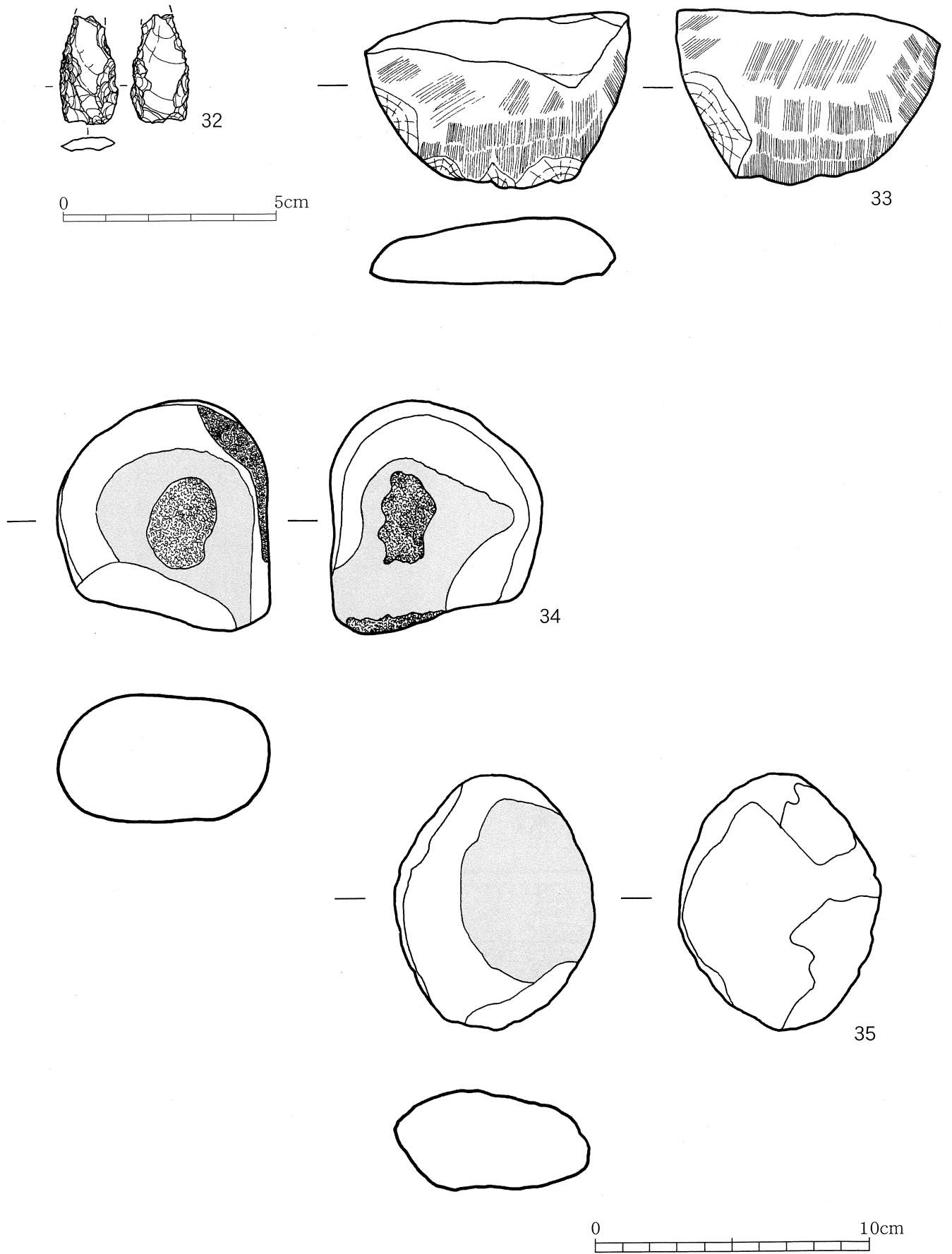
24



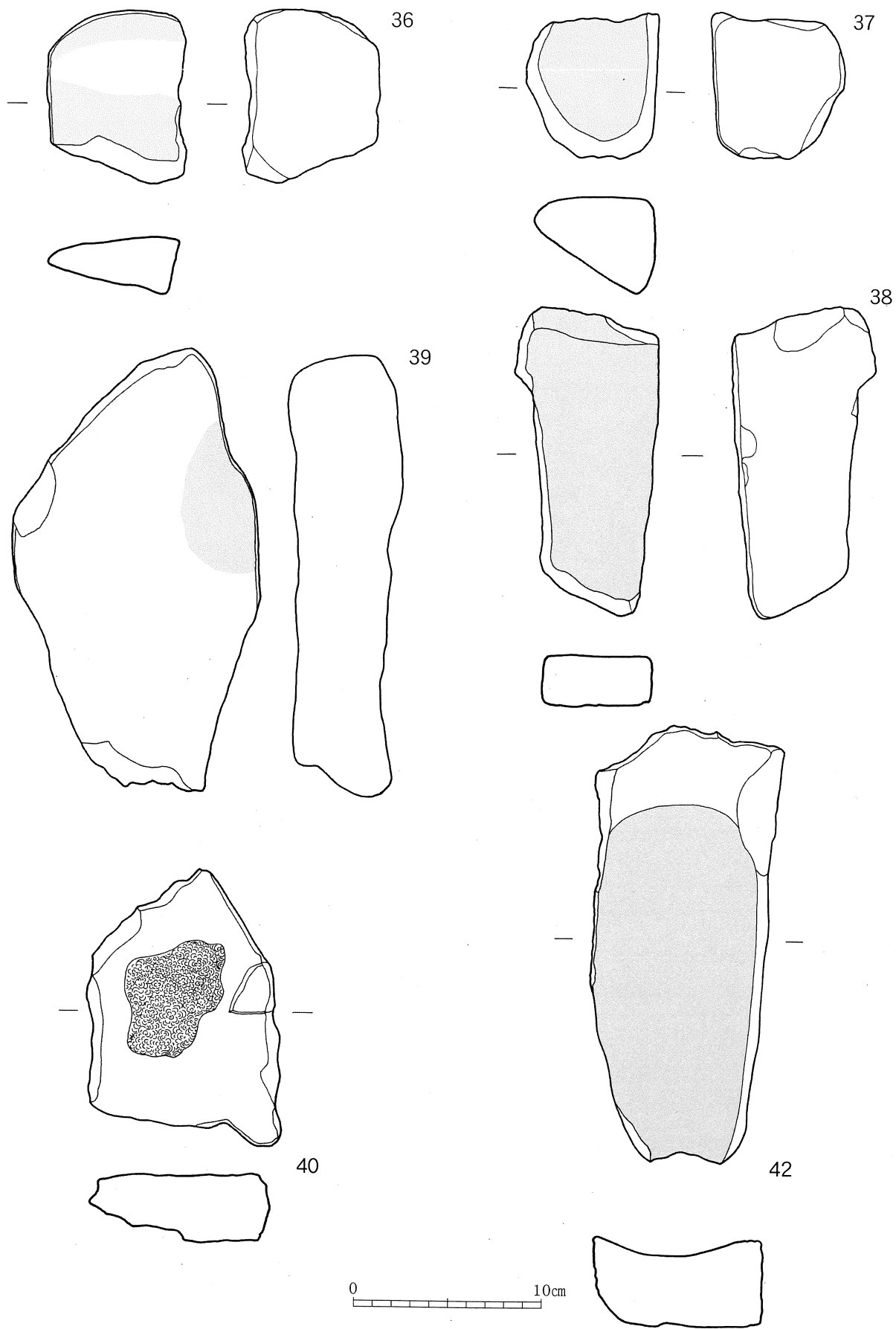
第13図 出土土器(4)



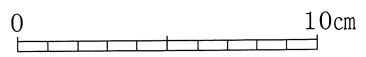
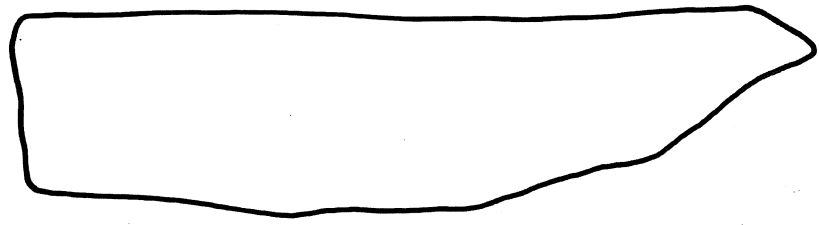
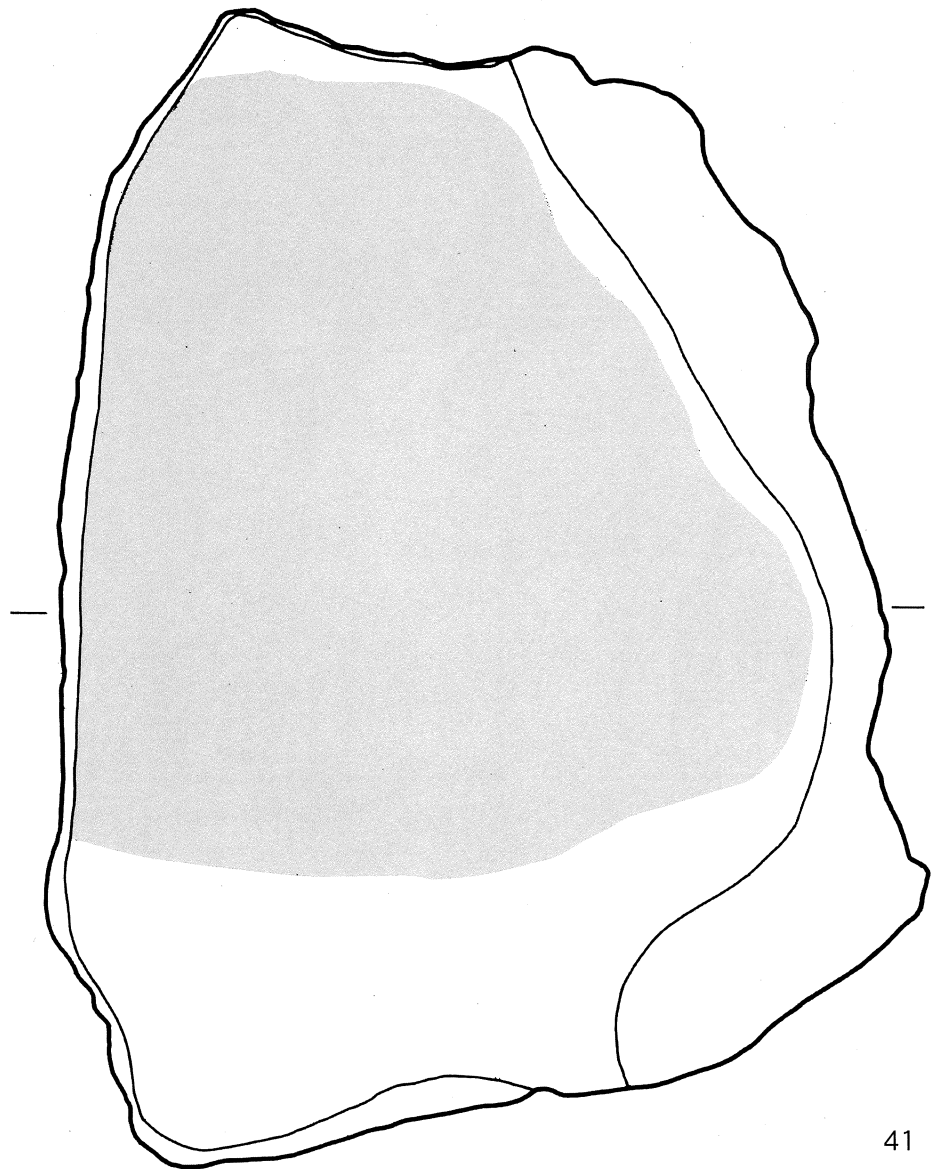
第14图 出土土器 (5)



第15图 出土石器(1)



第16图 出土石器 (2)



第17図 出土石器(3)

第3表 土器觀察表

挿図	番号	取上番号	層	出土区	色 調		胎 土	備 考
					外 面	内 面		
10	1	163	IV	CT	灰茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	
	2	164	IV	CT	灰茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	
	3	140/141	IV	CT	灰茶褐色	灰黒褐色	石英・長石・砂粒	
	4	223	IV	CT	灰茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	
	5	149	IV	CT	灰茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	
	6	245	IV	CT	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	
	7	151	IV	CT	茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母	
	8	117/118/ 124/133/ 136	IV	CT	灰赤茶褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒・雲母	
	9	134/137	IV	CT	灰赤茶褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒	底部
11	10	113/129	IV	CT	灰赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	底部
	11	221/227	IV	CT	赤茶褐色	灰赤茶褐色	石英・長石・砂粒	底部
	12	98	IV	CT	灰茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	底部
	13	160	IV	CT	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	底部
	14	228	IV	CT	灰茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	底部
12	15	10/13/15	IV	FT	灰黒褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒・輝石	
	16	一括	IV	FT	黒褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒・輝石	
	17	22	IV	FT	灰黄褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒・輝石	
	18	10	IV	FT	灰黄褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒・輝石	
	19	13	IV	FT	灰黄黒褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒・輝石	
13	20	22	IV	FT	灰黄褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒・輝石	
	21	9	IV	FT	灰黄褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒・輝石	
	22	11/12	IV	FT	灰黄赤褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石	
	23	22	IV	FT	灰黄赤褐色	黒茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石	
	24	14	IV	FT	灰黄褐色	黒茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石	
14	25	11	IV	FT	灰黄褐色	黒茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石	
	26	16	IV	FT	灰黄褐色	黒褐色	石英・長石・砂粒・輝石	
	27	21	IV	FT	灰黄赤褐色	黒褐色	石英・長石・砂粒・輝石	
	28	18	IV	FT	灰黄褐色	黒褐色	石英・長石・砂粒・輝石	
	29	80/85/86	IV	CT	灰赤褐色	灰赤茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母	
	30	154	IV	CT	乳茶褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒・雲母	
	31	147	IV	CT	赤茶褐色	灰黒褐色	石英・長石・砂粒	

第4表 石器観察表

挿 図	遺 物 番 号	器 種	出 土 区	取 上 番 号	出 土 層	最 大 長 cm	最 大 幅 cm	最 大 厚 cm	重 量 g	石 材	備 考
15	32	石鏃	FT	65	IV	2.55	1.35	0.35	1.28	チャート	打製
	33	石斧	FT	33	IV	9.20	5.95	2.00	16.0	頁岩	磨製
	34	磨石・敲石	CT	146	IV	7.80	7.30	4.60	390	砂岩	
	35	磨石	CT	79	IV	8.90	6.90	3.50	215	砂岩	
16	36	磨石	CT	179	IV	9.00	7.00	3.05	210	砂岩	
	37	磨石	FT	43	IV	7.40	6.90	5.25	300	砂岩	
	38	砥石	FT	32	IV	15.35	7.50	2.65	490	砂岩	
	39	砥石	CT	218	IV	23.25	12.90	7.85	2250	砂岩	
	40	台石	CT	238	IV	13.48	9.85	3.50	625	砂岩	
17	41	石皿	CT	200	IV	38.92	29.00	6.50	1040	砂岩	
18	42	石皿	FT	62	IV	22.45	9.60	4.50	1400	砂岩	

第Ⅳ章 調査のまとめ

二俣野遺跡は遺物が出土した層位及び遺物の文様から縄文時代早期の遺跡であることが判明した。遺構は配石が1基、集石が1基検出された。

配石は礫が10点散在し、この10点の礫が北から南へ一直線状に配置された状態での検出であった。礫には使用痕、熱を受けた痕跡は見当たらず、用途は不明である。今後の類例を踏まえ検討していきたい。

集石は70点の礫から構成され、中心部の礫は熱を受け赤化していた。調理場の跡と思われる。検出下面に堀込みはなく、炭化物は検出されなかった。

遺物はパンケース13箱分の出土であったが、調査面積が狭小であり、また出土土器が小片のものや磨耗で図化が困難なものが多数であったため、掲載できた遺物は少数となった。

遺物は土器片、石器類が出土した。土器は無文のものが大部分を占めた。文様のある土器で3から13は貝殻を使った押し引文や底部立ち上がりにヘラ状の工具で縦位にキザミを施していることから吉田式土器の範疇にはいると思われる。吉田式土器は本市の最近の発掘調査で最も多く出土しており、特に二俣野遺跡が所在する西之表市の東南部、東海岸側(安城・立山地区)で多数出土している。他、貝殻文系の土器、無文の土器が出土している。

出土層位は無文・貝殻文系土器片ともほぼ同じレベルであり、層位から時間差を判断することは、困難であった。しかし、無文の土器は農道をはさんで北側のFトレンチから主に出土していることから土器により生活区、あるいは時間差があったことが考えられる。

吉田式土器は先述したとおり、近年の本市の発掘調査で出土報告が最も多い土器でありその分布は特に東南部・東海岸側に集中している。この地区は縄文時代草創期の遺跡も形成されており種子島の縄文時代の成り立ち、遺跡の立地・形成を考える上で重要な場所である。最近の調査で、この吉田式土器は日守遺跡からレモン形(稜をもつもの)や小型のものが出土し、東前平遺跡や鉾ノ刃遺跡からも吉田式土器片が出土している。口縁部・底部の施文は同じだが吉田式土器の特徴の一つである胴部付近に施す押し引き文が見られず、貝殻条痕文が見られる資料もあり、これらの土器の出土も増加してきており、このタイプの土器は吉田式土器に続く倉園B式土器の可能性が高い。よって、これまで考えられている県本土と同じ土器文化圏に種子島も含まれていることを実証する資料である。

無文の土器については磨耗が激しくまた胎土に砂粒が多く含まれるのが大きな特徴である。今後類例の増加をまって検討していく必要がある。

石器ではチャート製の打製石鏃が1点、磨製石斧刃部1点、他は砂岩製の磨石・敲石類、砥石、台石・石皿類である。また、自然礫の出土が多数あった。

調査面積が狭小であったため、遺跡の全貌を語ることは困難であるが、出土した石器から遺跡を形成した人々が狩猟・採集生活を営んできたことが想像される。また、遺跡の主体部は調査区西側に広がっていると思われ、今回の調査した部分は遺物の出土量や地形から遺跡の先端部である可能性が高い。

遺跡の立地を見ると、本遺跡から数メートル東に行くと海岸部であり、これまで早期の段階で海岸部に隣接する形で形成されていた遺跡は極めて稀であり、今後遺跡の形成・立地を考察する上で意義深い調査となった。

写真図版



Cトレンチ調査状況 (1)

図版 2



Cトレンチ調査状況 (2)



Fトレンチ調査状況 (1)

図版 4



Fトレンチ調査状況（2）



発掘調査作業員の皆さん



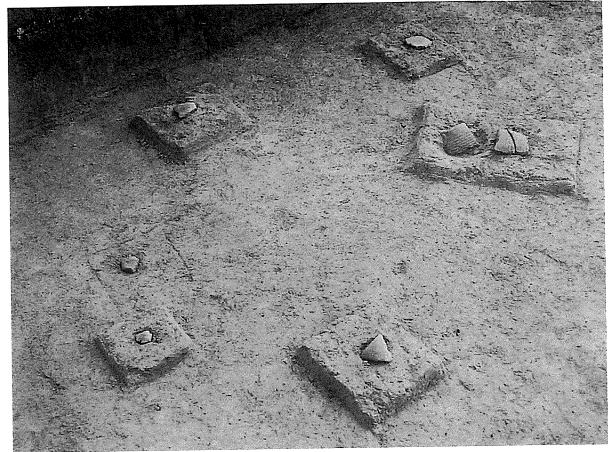
1号集石



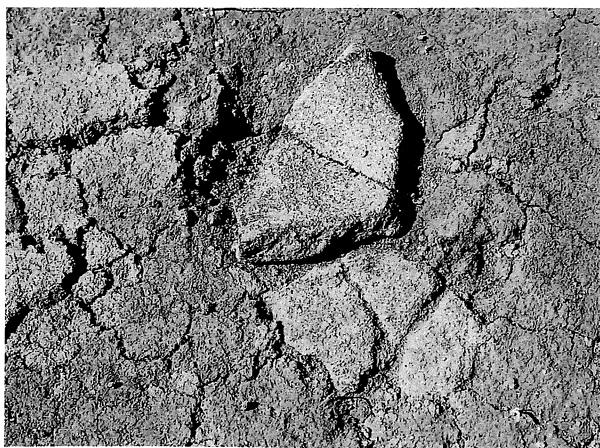
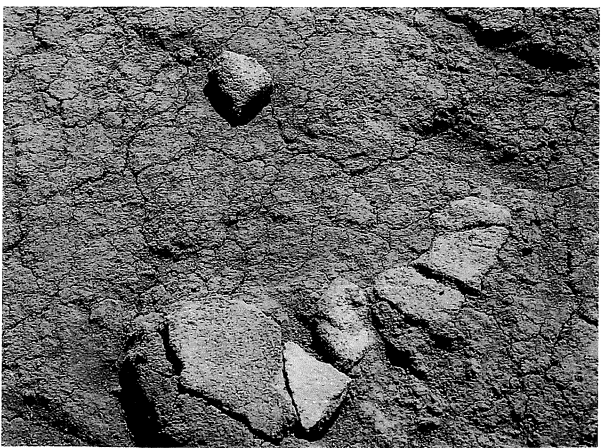
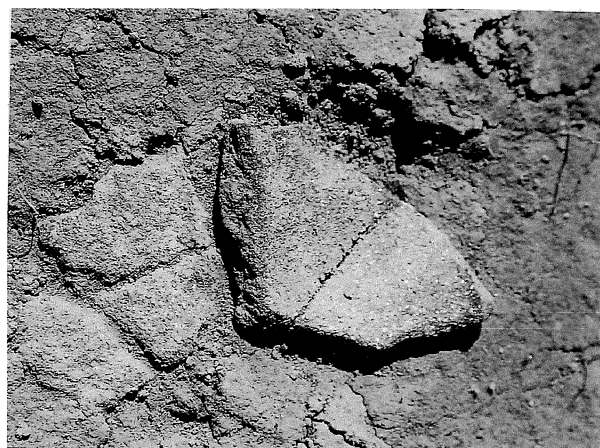
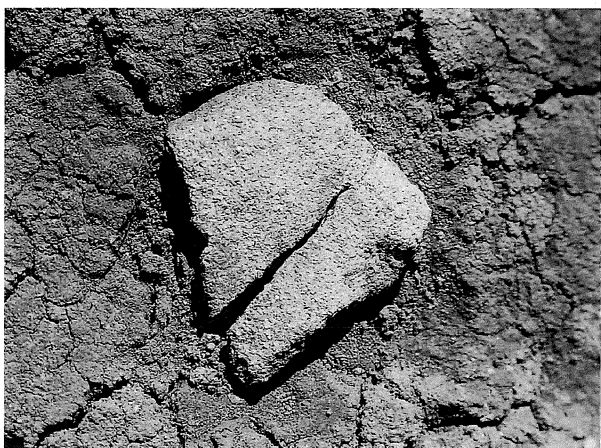
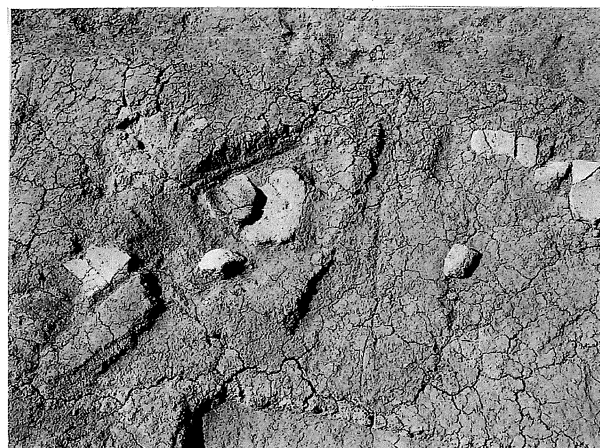
1号配石

1号集石・1号配石

図版 6

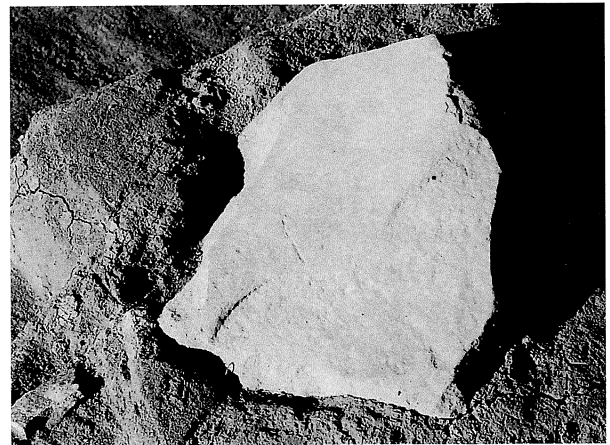
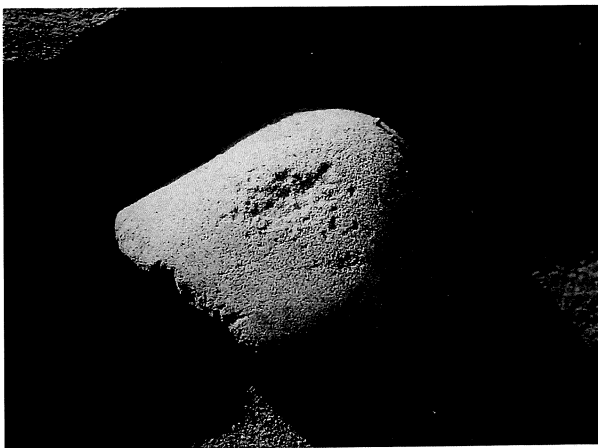
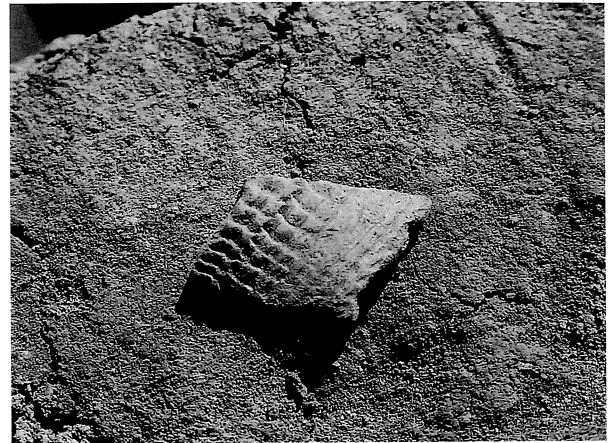
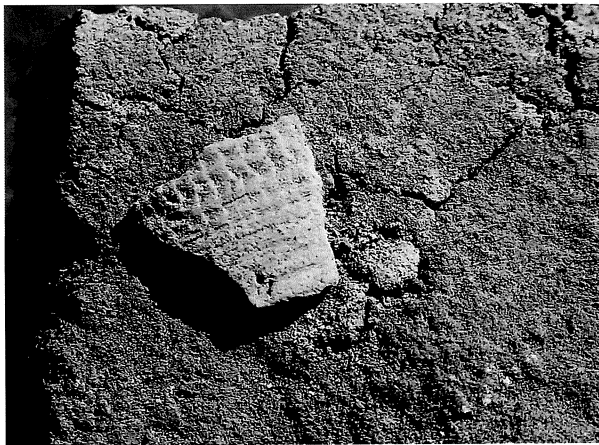
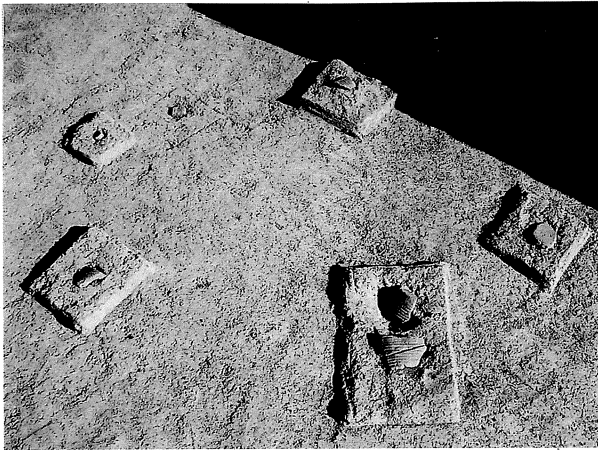


遺物出土状況（1）

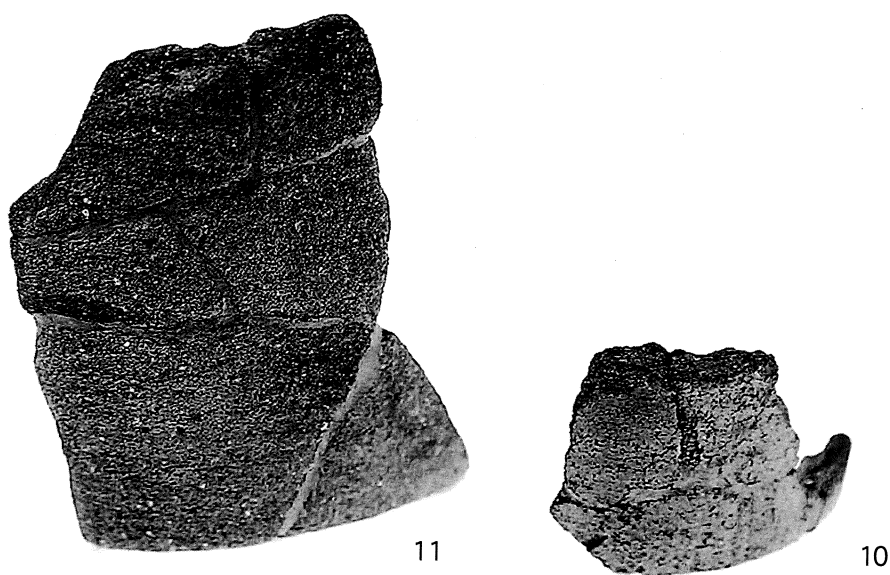
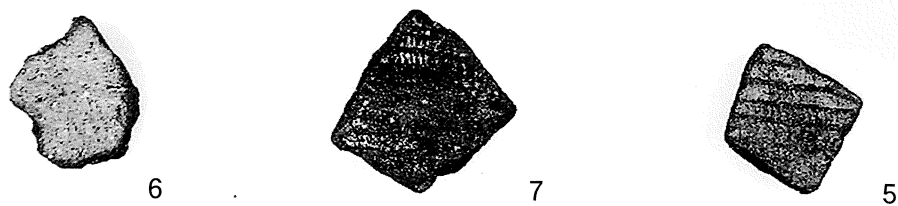
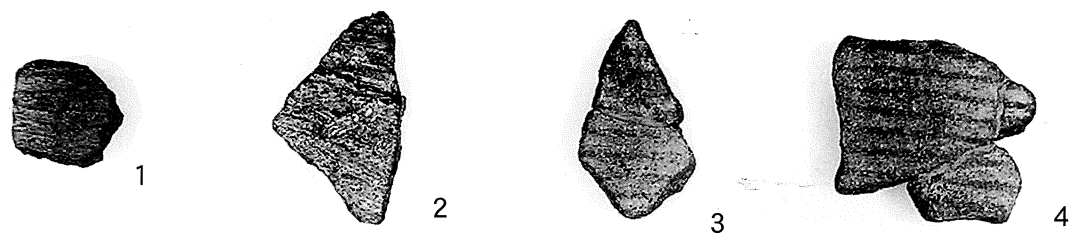


遺物出土状況 (2)

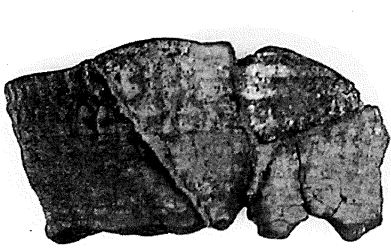
図版 8



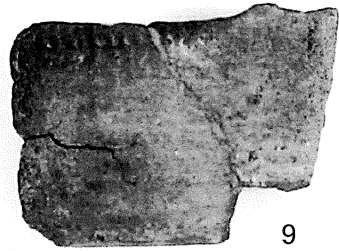
遺物出土状況 (3)



出土遺物 (1)



8



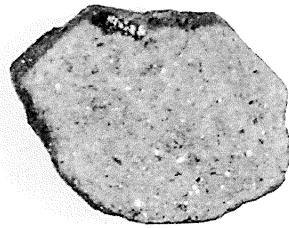
9



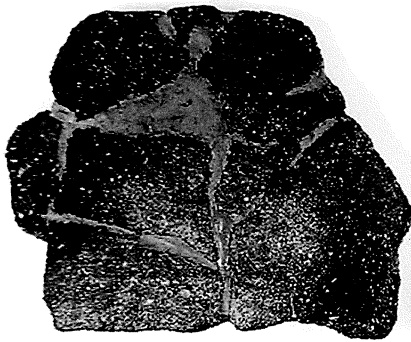
12



13



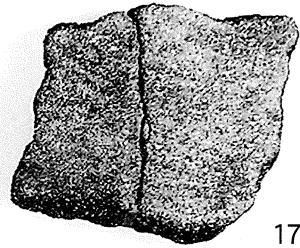
14



15



16



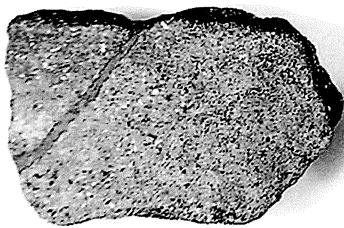
17



19



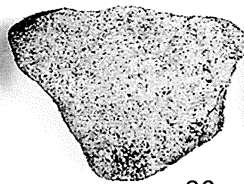
20



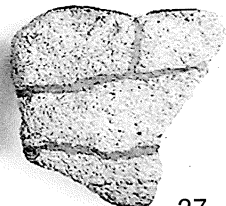
18



21

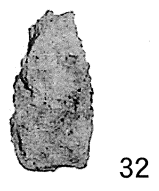
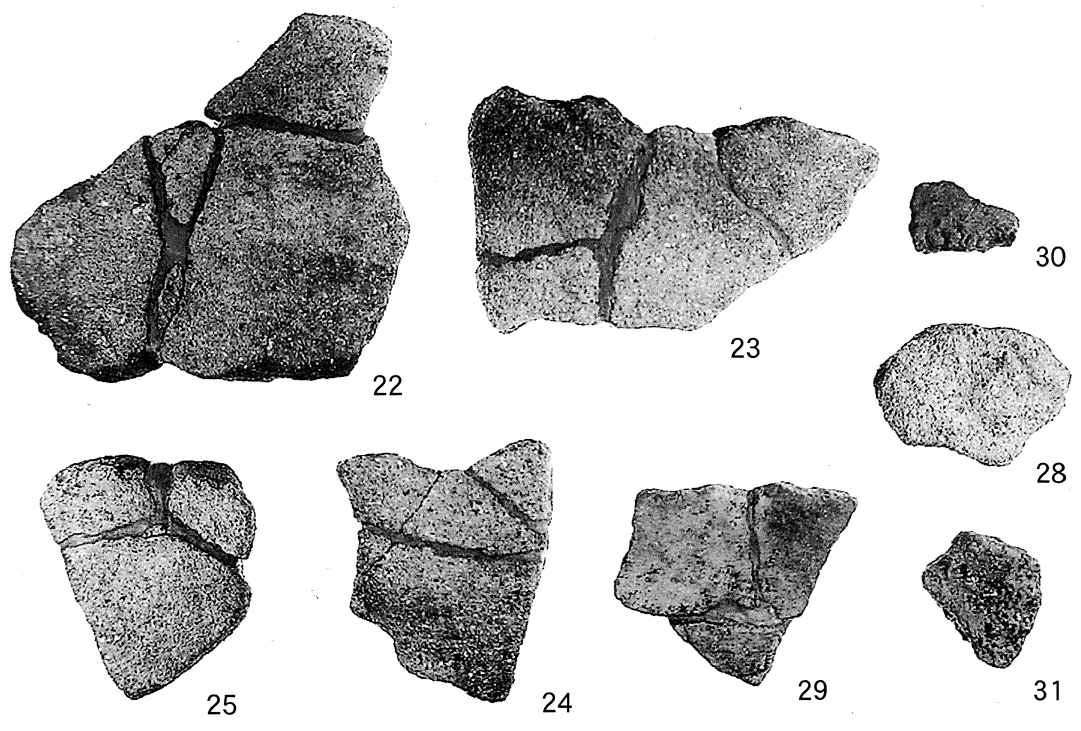


26



27

出土遺物 (2)



出土遺物 (3)



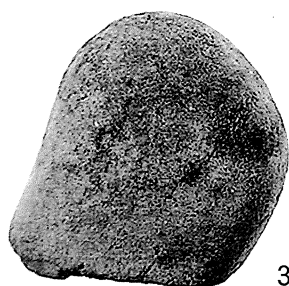
33



35



36



34



37

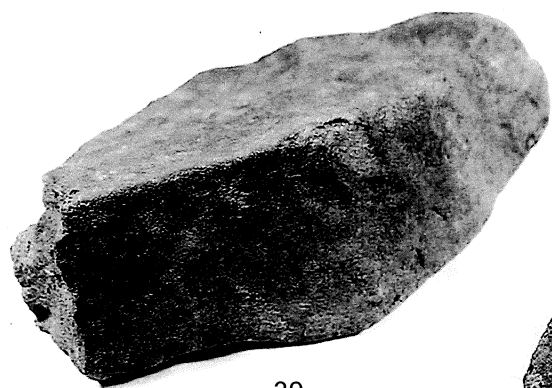


38

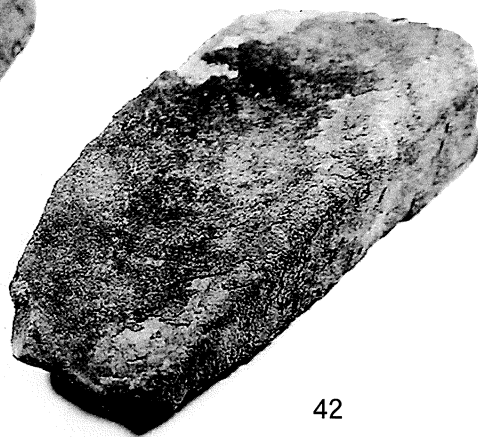


40

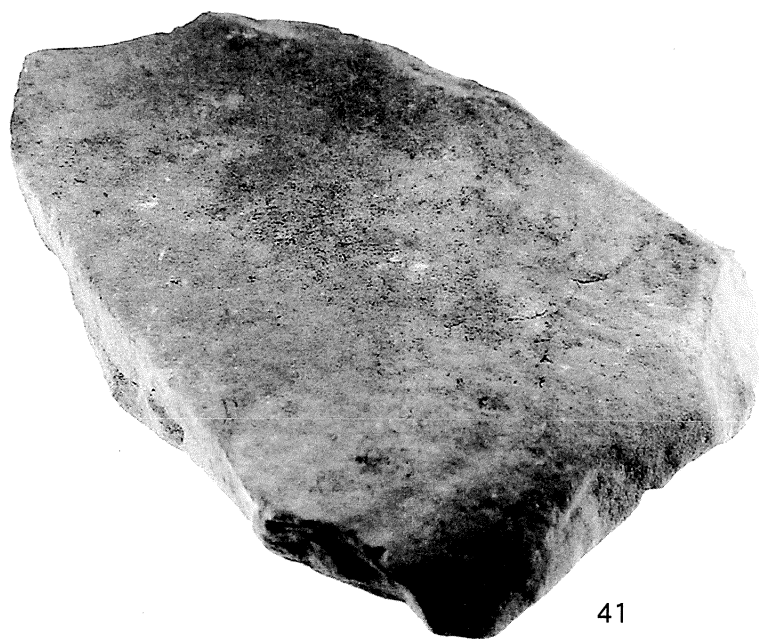
出土遺物 (4)



39



42



41

出土遺物 (5)

西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書 (17)

二俣野遺跡

発行日 平成18年3月

発行 鹿児島県西之表市教育委員会

〒891-3193 鹿児島県西之表市西之表7612番地

TEL 0997-22-1111

印刷 (有)種子島新生社印刷

〒891-3101 鹿児島県西之表市西之表16736-1

TEL 0997-22-0476